

大阪国税局長賞

「取られる」から「託す」へ

神戸市立神戸生田中学校3年

片岡 涼峰

私たち学生が毎日使っている教科書の裏表紙には「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」と書かれています。私はそれを知ったとき初めて、毎日が多く人の納めた税金によって支えられていることに気付きました。

私が税金と聞いてまず思い浮かぶのは消費税です。小学生の頃、税率が8パーセントから10パーセントに上がり、ニュースで多くの大人たちが高いなどの不満を口にしていたのを覚えています。そのため日本の税は高いというイメージを持っていました。しかし調べると、日本の消費税率は世界平均の15から16パーセントより低いことが分かりました。ではなぜ不満の声が多いのか、日本の教育と税の関係に注目し、税金での教育に力を入れている台湾、教育先進国のフィンランドと比較しました。

まずは台湾です。台湾の消費税にあたる営業税は5パーセントと低いですが、九年間の義務教育では給食の一部、教材、授業が無料です。政府は「教育は未来への投資」とし、多くの予算を教育に割いています。さらに税金の無駄遣いを防ぐため、国の予算や使い道をインターネットで公開し、メディアも積極的に報道しています。これにより誰でも不正や無駄遣いをチェックでき、国民一人一人の税に対する意識が高まっています。私は日本の課題でもある税の無駄遣い対策として国民に自国の税について知ってもらう努力が大切なんだなと感じました。

次はフィンランドです。消費税率は24パーセントと高く、国民からの不満が多いのかと思いましたが、国民はこの税率に納得しているそうです。なぜなら教育や福祉が非常に充実しているからです。義務教育、給食、教材、通学費などや大学までの授業料が無料です。さらに学生には生活を支える手当も支給されます。また、所得や地域による学力格差がほとんどなく、全ての子供が平等に教育を受けられるそうです。これらの安心感が幸福度に繋がり、国連の幸福度ランキングで数年連続一位です。日本より税率が高いにも関わらず国民が納得できているのは、このように生活の中で税金が使われているという事を感じやすいからなのかなと思います。

台湾のように税の無駄遣いを防ぎ、フィンランドのように国民の身近に税を感じさせる事ができるようすれば、日本の税も仕方なく払うものではなく、未来へ「託す」ものとして考えることができるのでないかなと思います。もし日本でも税の使い道などがもっと詳しく、分かりやすく、透明性を持つようになったら、国民一人一人が安心して納得しながら税金を納められるはずです。私は税金が「取られる」ものではなく将来の子供や社会のために希望を持って、「託す」存在になればいいなと心から思っています。